

★去る1日に秋闇最後の団体交渉を開く～来期に向けて教職員の待遇改善に真摯に向き合え

# 賃金・一時金を早急に他大学水準に近づけることが必要人員確保の要です

大学理事会には、来期も引き続き教職員の賃金・労働条件改善に全力を注ぐことが強く求められています！



# 組合だよい

2025/12/8

東京女子医大  
労働組合

自らの要求実現と医療改善のために  
貴方も労働組合へ加入しましょう



貴方が加入が労働組合の力を強めて、賃金・労働条件の改善につながります！

去る1日に今秋年末闇争最後の団体交渉を行いましたので、交渉の主旨を報告します。

♦年末一時金回答について♦

【組合】前回の団交で回答の再検討をお願いしましたが、その検討結果を知りたい。

【大学】組合の再検討要求を理事会でも討議しました。現在取り組んでいる制度改革や収支改善に頑張っている教職員に何とか応えたいとは思っていますが、今の財政状況の下では昨年水準を確保するのが精一杯という結論に至った。今後収支が改善したら、組合の要求に応えたいとは考えている。

【組合】旧体制の下でかなりの待遇引き下げが行われた。とりわけ2014年の医療事故以降は昇給額や一時金の引き下げを始め、生活調整手当の減額、ポイント制退職金の導入、昇格ストップ、住宅手当の支給基準引き下げ等々、大幅な人件費削減が強行され、他大学との格差が大きく広がった。そのことが教職員の大幅な離職につながったことは明らかだ。こうした点を考慮した上で今後の賃金・一時金の改善が重要なと思うが、理事会としてどう考えるか。

【大学】確かに女子医大は他大学に比べて低いという認識は持っておりますが、徐々に引き上げていかなればいけないと考へています。ただ財政状況の改善がないと実行できないのも事実だ。

♦労働条件改善について♦

【組合】看護師の確保状況について、昨年は全体での採用目標数に対する達成率が67%程度だったと思うが。今年はどうか。

【大学】現在、本院で165名、足立、八千代がそれぞれ80名程の採用内定者がいるので、90%は超えていると思う。まだ引き続き採用活動は続けていきたい。退職者も減少傾向にあり、ベッド稼働数も徐々に増えるのではないかと考えている。

【組合】職員食堂の設置要求が強い。特に足立では院内のコンビニとキッチンカーが出ているが、患者さんも利用しており絶対数が少ない。病院の周りには飲食店もない。出来たら院内食堂の設置を検討してもらいたい。本院でもコロナ以降職員食堂は閉鎖しており、教職員の福利厚生という点で食事に対する利便性が悪い。職員食堂の再開を検討してもらいたい。

【大学】話は伺つたので理事会に報告したい。その他では、年休の時間単位での取得実施や、院内のハラスメント（患者からの点も含めて）に対する対策・対応の強化、等を強く求めるとともに、来期の賃金・労働条件改善について、理事会が真摯に向き合うよう改めて要求し、今期秋年末闇争を終了しました。

## 【都内私立医大の今年度の一時金の支給率比較】

大学名	夏期一時金支給率	年末一時金支給率	年間一時金支給率
女子医大	2.05ヶ月	2.65ヶ月	4.70ヶ月
慶應	2.40ヶ月	3.50ヶ月	5.90ヶ月
順天堂	3.00ヶ月+一律17,500円	3.20ヶ月+一律23,500円	6.20ヶ月+一律41,000円
東京医大	1.95ヶ月+一律42,500円	2.70ヶ月+一律75,000円	4.65ヶ月+一律117,500円
日本医大	2.445ヶ月	3.15ヶ月	5.595ヶ月
杏林	2.30ヶ月+一律30,000円	2.90ヶ月+一律30,000円	5.20ヶ月+一律60,000円

※慶應は上記の他に年度末一時金0.5ヶ月分が支給されます

♥あなたも労働組合に加入しましょう♥

●第一支部(新宿本院)【内線】38811 【直通】3357-3785

※連絡が取れない時は、第一支部の組合メール(joshiidairouso@yahoo.co.jp)を活用して下さい

●第二支部(足立医療)【内線】24512 (休み時間連絡可能) 【ホームページ】女子医大労組で検索

